

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業  
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	38
学校名	富山県立南砺福野高等学校

学校の現状と課題	令和2年度から、新高校として国際科が新設され、4学科体制(普通科、農業環境科、福祉科、国際科)となったことを契機に、「南砺市から世界の各方面でリーダーとして活躍できる人材の育成」を目標として掲げ、教育活動を推進している。 そのためには、各学科の特色を生かしつつ、生徒自らが故郷の魅力を知り、地域や世界に向けて発信する機会を設けることが必要である。	
テーマ(特色)	ふるさと教育の充実と、国際感覚を身につけたグローバル人材の育成	
設定した「テーマ」の達成状況	※新型コロナウイルス感染症の影響を受け、計画していたことが中止になったり、大幅な変更を余儀なくされることがあったが、中でも工夫を凝らし、テーマを達成することができた。 ・「総合的な探究の時間」、志学会(土曜講座)、課外などの時間を利用し、市の取り組みについての講演会や地元との交流事業を通じ、各学科の特性に応じて研究を進めた。 ・取り組みの様子は、発表会を行ったほか、プレゼンテーションや冊子などの形で発信することで、校内で共有した。 ・研究成果は、ホームページを通じて外部に発信したほか、地域との交流事業やボランティア活動に活かすことができた。	
実施内容 (具体的に記入する)	①普通科 1年生4クラスを複数の班に分け、それぞれ地域に関する課題を設定し、リモート取材やアンケート調査を行って現状についての理解を深めたほか、解決策を検討・提案した。班ごとの研究内容はクラス内及び国際科と合同で学年全体で発表会を行った。 ②国際科 南砺市や有識者による講演を通じて、SDGsや国際理解の必要性を学んだ。また、探究活動をテーマにした講義を受けたり、リモートを活用して東京や海外に住む講師と英語で交流するなど、コミュニケーション能力の向上を図った。 ③農業環境科 本校生徒が講師となって、地域の大人との活動(「共学農園」の実施)や、小学生との花の寄せ植え体験、中学生とのサツマイモの栽培交流会などを実施した。ほかにも「歳の大手」出店や雪吊りボランティア活動などを通じて、地域・ふるさとについての学びを深めた。各自が学んだことは発表会の形で共有した。 ④福祉科 地域の福祉施設に赴き、利用者との交流活動を行った。コロナ禍のため、当初の予定よりも回数を縮小して実施せざるを得なかったが、高齢者や障がい者など、自分とは違う立場の人たちへの共感と理解の大切さを学んだ。活動を通じて各自が学んだことを介護総合演習発表会で共有した。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	①普通科 生徒たちはそれぞれに地域の課題を理解し、自分たちの住む地域がさらに魅力的な場所になるよう、地域の抱える様々な課題に対しての解決策をこれからの未来を創る若者ならではの視点で提案していた。自分たちで課題を見つけ、詳細に調査し、解決策を提案・発表するという一連の活動を通じ、主体的な学びの姿勢を身につけることができた。 ②国際科 自分が住む地域における研究課題とSDGsとを関連付けて研究を進めたり、リモートによる異文化交流体験を実施することで、地域に根差しつつグローバルな視点を持つことの重要性を知ることができた。また、日ごろから身の回りの出来事に問題意識を持って探究することの大切さを学んだ。 ③農業環境科 自らが講師となって地域と交流活動を行ったり、地元イベントやボランティア活動に従事することで、地域で必要とされる人材となることの素晴らしさを学んだ。活動やそれに伴う準備は生徒たちが自主的に行い、思考力や実践力を身につけた。 ④福祉科 福祉施設(地域活動支援センター)を見学し、地域の障がい者福祉の現状や課題について知ることができた。また、実際に利用者と交流することを通じて、自分たちができることを自発的に考え、その後のボランティア活動や介護実習に活かすことができた。	
対象者(学年・人数など)	①普通科1年160名、②国際科1年30名、③農業環境科89名、④福祉科88名	
実施実績	4月	
	5月	②南砺市・有識者による講義
	6月	②課題研究、③サツマイモ植え付け
	7月	①課題探索、②南砺市・有識者による講義
	8月	②テキスト内容検討
	9月	②南砺市や有識者による講義
	10月	②課題研究中間発表会、③サツマイモ収穫、花の寄せ植え交流会
	11月	④地域福祉施設との交流活動
	12月	①地域課題探究活動(~2月)
	1月	
	2月	①地域課題学習発表会、②課題研究発表会
	3月	